

『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント

～不正を犯す動機、企業が与える機会、従業員の内面の状況等、不祥事対応に“必要かつ有効な”新しい視点～

●日時● 2018年5月24日(木) 13:00～17:00

●会場● 東京・麹町『企業研究会セミナールーム』

講師

西村あさひ法律事務所 パートナー/弁護士 梅林 啓 氏

【講師紹介】1989年東京大学法学部卒業。1991年検事任官。東京地検特捜部検事ほか、各地方検察庁において、犯罪捜査・公判等の検察実務に従事。法務省刑事局では主として刑事関連の国際条約の起草作業に関与。在イギリス日本国大使館一等書記官(外務省出向)、内閣官房副長官秘書官等を歴任、2007年2月検事退官後、弁護士登録。同年3月西村あさひ法律事務所入所。2010年1月よりパートナー。現在は主に一般企業法務、コンプライアンス、企業不祥事にかかる危機管理案件などに取り組む一方、「社内調査の進め方」、「従業員不祥事の早期発見・抑止」などコンプライアンス関連のセミナー講師を多数務め、現場での経験を踏まえた臨場感溢れる講演として定評がある。論文(NBL889号、890号、947号、999号、ビジネス法務2011年9月号「不祥事公表の要否とタイミング」、月刊監査役563号、602号)、日本経済新聞2012年6月13日経済教室「技術流出、どう防ぐ(下)情報保護法制の整備急げ」など多数執筆。

◆ 開催にあたって

従業員による不正・不祥事の発生は、事実関係の調査や再発防止策など、企業にあらゆる事後対応と大きな負担を強いることから、その兆候を出来るだけ早期に発見するとともに、組織全体で抑止していくことが望まれます。

本講座では、不正行為を単なる“従業員の個人的資質に因るもの”とは捉えず「そもそも何故、従業員は不正に走るのか」という、従来の不祥事対応ではあまり論じられなかった『不正行為発生のメカニズム』を、従業員が不正を犯す動機、企業が与える不正の機会、従業員の内面の状況等から多角的に解明していきます。更に、そのメカニズムを踏まえ、不正行為の早期発見に向けて日頃から着目すべき視点や、抑止策を講じる上でのポイントについて、実際に社内できこり得る不正・不祥事のケースをもとに、実践的に解説していきます。

「詳細は裏面をご覧ください」

●受講料● 1名(税込み、資料代含む)

正会員	33,480円	本体価格 31,000円
一般	36,720円	本体価格 34,000円

●正会員の登録の有無など、よくあるご質問(FAQ)は、当会ホームページでご確認いただけます。

(「TOP」→「公開セミナー」→「よくあるご質問」)

●お申込み後(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

●お申込後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願い致します。

●最少催行人数に満たない場合ほか、諸般の事情により開催を中止させていただく場合もございます。

●本申込書をFAXでお送りいただく際は、ご使用のFAX機の使用法(0発信の有無など)をご確認の上、番号をお間違えないようご注意ください。

一般社団法人企業研究会

担当：上島 E-mail kamijima@bri.or.jp

〒102-0083

東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951

申込方法 ホームページからのお申込みが便利です。 <https://www.bri.or.jp>

企業研究会セミナー

検索

*セミナーの最新情報もご覧いただけます。

181005-0302(※)		2018.05.24	
申込書 『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
Eメール			

【個人情報の利用目的】お客様の個人情報は、お申込受付後のご連絡やご請求等を行うため、また、ダイレクトメールの発送等、当会主催の各種事業をご案内するために利用させていただきます。

『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント

～不正を犯す動機、企業が与える機会、従業員の内面の状況等、不祥事対応に“必要かつ有効な”新しい視点～

5月24日(木)

● プログラム ●

■講師 西村あさひ法律事務所 パートナー/弁護士 梅林 啓氏

- 解説 -

13:00

I. 不正・不祥事対応の現状と新しい視点の必要性

- (1) 企業における従来の不正・不祥事対応から導かれる“結論”と“反省・あきらめ”
- (2) 不正行為発生のメカニズム(=新しい視点)から不祥事対応にアプローチする必要性
 - ・そもそも不正行為はなぜ発生するのか?
 - ・不正行為を行う従業員は、もともと資質に問題のある者なのか?
 - ・従業員が不正に走った一因は、会社にもあるのではないか?

II. 不正行為発生のメカニズムの解明 ～会社資産の不正流用(横領)をケースに～

- (1) 不正のトライアングル(動機・機会・正当化)とは何か?
- (2) お金が必要という「動機」(プレッシャー)
 - ・従業員自らが作り出す動機、会社の行為によって作り出された動機の事例
- (3) 不正流用ができる「機会」
 - ・入金処理、不正支出に絡む機会の事例
- (4) 不正そのものの「正当化」
 - ・「悪いことではない」との自らへの言いかせ、他人への責任転嫁と具体例
 - ・正当化という要素が持つ固有の特徴と留意点

III. 不正行為の早期発見に向けたポイント ～不正行為発生のメカニズムを踏まえて～

- (1) 「機会」の発見
 - ・機会がどこに潜んでいるかを考える
 - ・不正の機会を得てしまった従業員に見られる行動の特徴
 - ・機会を見つける方法(取引先からの情報提供、上司のチェック機能の検証、内部監査の充実、など)
- (2) 「動機」の発見
 - ・動機を発見するための視点(個人的悩みへの関心、社内コミュニケーションの充実、など)
- (3) 「正当化」の発見
 - ・不正を正当化してしまった従業員に見られる行動の特徴

IV. 不正行為の抑止に向けたポイント ～不正行為発生のメカニズムを踏まえて～

- (1) 「機会」に関する抑止策
 - ・権限集中の回避
 - ・日常的なモニタリング体制、不正が発見できる内部監査体制の確立
 - ・定期的な人事異動の制度化
- (2) 「動機」に関する抑止策
 - ・会社の行為が、時に従業員の「切羽詰まった状態」を作り出す
- (3) 「正当化」に関する抑止策
 - ・従業員のモラル維持に向けた“しらけない”教育・研修制度の必要性
 - ・不正への厳正なる処分、人事、昇給、昇進に関する透明性・公平性の確立

V. その他不正行為への応用 ～機会・動機・正当化のどこに着目し、どう対策を講じるか～

- (1) 架空循環取引
- (2) 秘密情報の持ち出し
- (3) 製品・食品事故・偽装、各種法令違反
- (4) インサイダー取引

17:00